

● 堺市議会がロシアのウクライナ侵攻を抗議

2月24日のロシアによるウクライナ侵攻という暴挙を受け、堺市議会は「武力侵攻を非難する決議」を全会一致で可決しました。また、堺市では、ウクライナからの避難民を既に公営住宅で受け入れ始めています。慣れない異国の方にお困りのことも多いと思いますが、国際課のみなさんと連携し、寄り添って対応して参りますと共に、この期に乘じた「核共有」などといった議論には与しないことを明言しておきます。

◎本会議終了後、同僚議員と共にウクライナ侵攻に抗議する市民スタンディングに参加し、反戦の意思を示しました。



● 南老人福祉センターはコロナ禍に乗じて市民負担を増やすな

御池台にある南老人福祉センターは高齢者のみなさまの憩いの場として多くの方々にご利用いただいております。昨年12月、コロナ禍を理由に、感染対策と称し、これまで職員が行っていた貸室の机や椅子の出し入れを利用者に強いるよう、変更しました。高齢者の方に重い備品を運ばせることの危険性や、施設の設置目的からも逸脱する制度変更であり、断じて容認できないと強く抗議し、取り扱い方法の変更を撤回させました。他者を思いやり、長く生きることを寿げる社会を築いていくため、できることからコツコツと頑張ります。



● ビッグバンが子どもたちに夢と希望を与える施設となる様に

大阪府立大型児童館「ビッグバン」の無償譲渡と、それに伴う堺市の負担増については厳しく指摘し、ビッグバンの底地については、大阪府から無償で譲渡させるべきと厳しく追及してきました。底地の問題は積み残されたままですが、引き続き、府市に働きかけて参ります。また、市の施設となったビッグバンについては、しっかり有効活用し、堺の子どもたちに夢と希望を与える施設となる様、提言を続けています。市への移管後、これまですべて有料スペースであったものを、1階部分は無料スペースとして開放しています。ここに、子育て相談機能を持つことを提案しています。春休みには、南区在住の元鉄道技術者の方とコラボし、O(オー)ゲージ鉄道模型の運転会を実施し、大好評を得ました。夏休みにも開催される予定です。ビッグバンで幅広い世代が交流し、互いに学びや気づきを得られる機会を創出する場として活かしていく様、これからも様々な提案を行っていきます。



● 子ども、高齢者、障がいのある方が「ごちゃまぜ」に暮らせるまちづくりをめざして

誰もが安心して住み慣れた地域で暮らし続けていけるまちや社会をめざし、2007年春（当時29歳の堺市最年少）初当選をさせて頂きました。今春、丸15年を迎えました。ご指導、ご支援下さいました全てのみなさまに感謝申し上げますと共に、引き続きのご鞭撻をお願い申し上げます。今春、私はメディアでも話題の複合福祉拠点「ゴジカラムラ」を視察しました。高齢者や障がい者の暮らしの場や専門学校、幼稚園、託児所、学童保育にレストランなど、みんなが地域で暮らすために必要なモノがすべてそこにはありました。大いに参考にし、南区のまちづくりに活かしていきます。



編集 小堀セイジ事務所

発行 〒590-0117 堺市南区高倉台2丁19-17

TEL 072-292-8619

FAX 072-292-8679

mail koboriseijioffice@gmail.com

https://kobori.cdp-osaka.jp/

Twitter @seijikobori

公式 HP



Twitter



「聞く・伝える」は議員の基本です。
ぜひ、みなさまのお声をおきかせください。



～プロフィール～

■ 堺市立高倉台小 ■ 堺市立三原台中 ■ 大阪市立扇町高校 ■ オーストラリア国立ディーキン大学
■ 大阪市立大学大学院（修士） ■ 大阪公立大学（博士後期課程在学中）

●市民人権委員会委員

●大都市制度広域行政調査特別委員会委員

●堺市地域包括ケアシステム審議会委員 ●堺市住宅まちづくり審議会委員 ●堺市同和行政協議会委員

3年に渡るコロナ禍でしんどい思いをしている市民に寄り添おうとはしない市政



● 議会の良識で「おでかけ応援制度」の改悪案を再び否決

昨年12月、永藤市長は「財政状況の悪化※」を理由に「おでかけ応援制度」の利用開始年齢を65歳から70歳に引き上げる改悪案を議会に示しました。永藤市長は就任直後の平成30年度決算審査特別委員会総括質疑で、私の質問に答える形で、永藤市長は「お出かけ応援制度の拡充」と明言したにも関わらず、自らの公約違反でもある改悪案を提案してきました。私はこれを厳しく批判し、昨年12月21日、市議会は市長提案を否決しました。

市長と市議会の関係は「二元代表制」と言われ、お互いがそれぞれ住民に対して直接責任を負い、大きな権限を持つ市長を、市議会が監視する役割を担う制度です。この「二元代表制」の原則をも反故にする、驚くべき提案が市長から年明けに出されました。その中身は「お出かけ応援制度」の利用開始年齢は前回同様65歳から70歳に引き上げる。ただし、65歳から70歳までの非課税世帯については引き続き利用を認めるというものです。これは前回の提案とほぼ中身が同じだと言っても過言ではありません。

市は、「おでかけ応援制度」の改悪案の代替策として、「健康アプリを活用した高齢者の健康増進施策※※」を提案してきましたが、これは費用対効果を度外視し、政策効果が極めて乏しいものであり、到底高齢者の健康増進という当初の目的が果せるものではないことから、私は「予算の修正※※※」を提案し、この施策等を取り止めるよう求めました。

年齢を重ねると、これまで築いてきた「人と人」や「人と社会」との繋がりの輪が少しずつ小さくなっています。これは自然なことですですが、緩やかに、無理のない範囲で「人と人」がつながり、コミュニケーションを交わすことは、健康寿命の延伸に必要不可欠です。またバスや路面電車を利用するということは、バス停や電停まで往復歩くことを意味し、健康増進の鍵である「歩数」を増やす効果があります。「おでかけ応援制度」は、公共交通の利用促進のみならず、高齢者の「今日行くところ、今日は用事がある（略して『きょうよう』）」を応援する、健康寿命延伸政策です。

併せて、市内公共交通事業者は、人口減少とコロナ禍で大変厳しい経営を強いられています。高齢者の公共交通の利用促進を図る事で、バス、路面電車の路線維持確保を図り、現役世代の移動の利便性向上にも役立つ政策だと確信しています。引き続き、市民の健康づくり政策の充実と公共交通の利便性向上、維持確保のため、先頭に立って闘って参ります。（※、※※、※※※は中面の記事をご参照ください。）



議員活動のご報告



大阪府民を不幸にするカジノで大阪の成長はない！

横浜では市民の力でカジノ計画が白紙撤回、和歌山では県議会が良識を示し、カジノ計画を否決と、コロナ禍も相まって、流れは変わりつつあります。私は大学（学部）時代をカジノ合法の国「オーストラリア」で過ごし、ギャンブル依存症の悲惨さを見てきたことから、国内でのカジノそのものに反対してきました。大阪の「カジノ」は「IR」と言い換えられ、カジノには「税金を使わない」と約束してきた事すら反故にされ、大阪府市の議会で「カジノ区域整備計画」が可決成立させられました。それに歯止めをかけようと市民が立ち上がり、「カジノの賛否を問う住民投票」を呼びかける運動が行われ、私も受任者の一人となりました。将来にツケを残すカジノ計画に最後まで反対の声を上げ続けます。

写真上：カジノに反対する市民団体との意見交換会に菅直人元総理、府議2名、長谷川俊英堺市議と共に出席しました。



いのちを大切にする政治を求めて

効率化の名の下に、命をないがしろにしてきたツケが、コロナ禍で炎上出されています。私は、戦後最大の労働災害事故「三井三池炭鉱三川坑炭じん爆発事故」から学び、教訓を得ることで、これから社会の在り方を考える糸口に繋がるのではないかと考えています。爆発事故により引き起こされた「CO中毒」は、今でいう「高次脳機能障害」であることがわかつており、現代では交通事故などにより多く引き起こされています。「高次脳機能」の問題を広く知つていただき、支援体制を構築するため、多くの方々と連携し、問題提起のための映画の製作などに取り組んできました。4月、映画の上映会を衆議院議員会館で実施し、私が司会を務め、元厚生労働副大臣にもご出席いただきました。コロナ禍の今だからこそ、人々の日々の営みを貴ぶ政治をめざしていきます。



衆議院議員会館にて
私の手前は三池炭鉱労働組合
最後の組合長 芳川さん

みどり豊かな自然環境を守り、「堺のめぐみ」を輝かそう

ウクライナ危機で麦や大豆などの国際価格が上昇し、日本国内でも食品の値上げが相次ぎ、我が国の食料自給率の低さに大きな注目が集まっています。堺では南区を中心に、質の高いお米作りなど、様々な都市農業が続けられており、豊かな自然環境の保全にも役立っています。言うまでもなく、米作りには美しい川の水が必要不可欠です。水質保全のため、池の浚渫や河川の水質検査を積極的に実施する様求め、前向きな回答を得ました。また、酪農産業の高付加価値化の提言も行っています。自然環境を守り、安全安心な食とみどりのまちをめざします。



関係部署と共に、法道寺川などの現場の状況を確認しています。

コロナ禍で気球は飛ぶのか？未だヘリウムガスの調達できず！

コロナ前の2019年11月、韓国京畿道水原にある世界遺産「水原華城」を上空から見学できるガス気球を同僚議員と視察し、気球を動かす上で留意すべき安全点などについて調査しました。しかし、コロナ禍を受け、外国との往来は閉ざされ、市民生活は一変しました。私はコロナ禍を受け、「不急」の事業は見直し、市民生活に直結する施策へ積極的に予算を付け替える様求めてきました。しかし、「市長肝いり？」の気球事業は踏みとどまるところなく、気球の基盤整備工事が進められ、既に完了しています。しかし、未だコロナ終息は見通せず、ヘリウムガスの調達目途も立っていません。3月2日、市は「できるだけ早期に（気球を）運航」したい旨を答弁しましたが、目途は全く立っていません。本事業が「不急」であった証左であり、コロナ終息後に着手すべきものであった事が如実に明らかとなりました。市民生活に近い予算と遠い予算の別がつかない市政には呆れます。



写真：韓国・水原のガス気球前で同僚議員と

人生100年時代の学びを応援しよう！

1979年（驚くべきことに私が2歳の時です）に泉州で誕生した高齢者生涯学習のための市民大学「いずみ健老大学」は、サミュエル・ウルマンの『青春』そのものを体現する「知の拠点」であり、諸先輩方からは、生涯学び続ける姿勢を教えて頂いています。この間、キャンパス（泉州センタービル）所有者の変更やコロナ禍などにより、継続した活動が年々難しくなっています。令和3年度、生涯学習を担当する市民人権委員会の委員として、1年に渡り、官民連携によるサポート策の構築に向けて議論を積み重ねてきました。こうした議論を受け、今春の永藤市長のキャンパス訪問へと繋がり、キャンパス所有者の幹部と大学理事長との懇談も予定されています。生きがいのある人生100年時代を実現していくため引き続き、力を尽くします。



平和を所管する市民人権委員会で質疑に立つにあたり、ウクライナ市民に寄り添う意味から水色と黄色のネクタイを締め質疑に立ちました。

※「財政状況」の悪化は本当か？

令和3年2月8日、堺市は「財政危機宣言」を発出し、「おでかけ応援制度」の利用年齢の引き上げを2度も議会に提案する、また私が初当選以来手掛けてきた「泉北高速鉄道等通学費補助制度」についても廃止を決めました。市の財政状況は景気の動向や社会情勢（ウクライナ戦争など）、予見できない要因（コロナ禍）に大きく左右されます。この間、基金残高（家庭の貯金に相当）の減少を理由に、いたずらに「危機」をあおつてきましたが、結果的には、コロナ禍の中、基金を積み増す結果となり、メディアからも「**基金枯渇で「財政危機宣言」のはずが、400億に その理由は…**」との記事が出る始末です。無駄は厳に慎まなければなりませんし、この15年、無駄には厳しくメスを入れてきました。また、教員の加配等をはじめとし、必要な予算については、なんとしても確保する様求め続けてきました。市民サービスを切り捨てるのではなく、高付加価値化で市内民間中小零細企業を元気にし、良質な雇用を生み出すことで、財政の好転化を図っていきます。

※※「健康アプリ」は高齢者の健康づくりに役立つか？

高齢者の健康増進に役立つ「おでかけ応援制度」の改悪を提案する一方、健康アプリを活用した施策（総額738万円）の提案がありました。その内、250万円を健康ポイントとして付与し、残りはアプリ開発等に充当するという、極めて杜撰かつ効果が乏しい事業です。スマホなどが使いこなせず、ワクチン接種予約がオンラインでは行えない高齢者が大勢いたのに、アプリを使っての健康政策。いったいどこを向いているのでしょうか？スマホを高齢者に使っていただくための支援として、バイト先などを失った大学生に賃金を支払い、地域で高齢者にスマホの使い方教室などを実施し、無料で使えるアプリ（万歩計）を活用して頂く方がよほど効果的と申し上げ、本予算等の削減を提案しました。

※※※財政が厳しいと喧伝しながら、なぜ「減額修正」を否決するのか？

「健康アプリを活用した健康増進施策」については、その政策効果を多くの議員が疑問視し、この施策を予算から除外する修正案が出され、24/47（議長を除く）で可決しました。これにより、700万円を超える予算縮減が図られる事になりました。しかし市長は『再議（市長が議会に再度の議論を求め）』権を使用し、その結果、29/47で「3分の2以上」には3人賛同者が足らずに否決され、予算修正が叶いませんでした。財政危機を喧伝する一方、予算縮減策には反対する。この姿勢からも、「財政危機」の真偽が見て取れるのではないでしょうか？

議決する内容	長が再議に付す期間	再議の決議要件
条例の制定改廃予算に関する議決	送付を受けた日から10日以内	出席議員の3分の2以上
上記以外の議決	議決の日から10日以内	出席議員の過半数